

事例から考える リスクマネジメント

本日の授業内容

1. リスクへの備え
2. もしもリスクが起きてしまったら・・・
3. 私的保障
4. まとめ

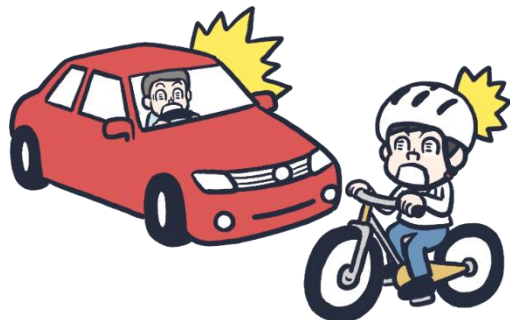
1. リスクへの備え

～ 3つの保障を理解しよう～

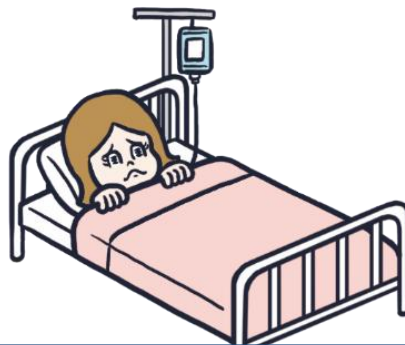
リスクとは何か

リスクとは…

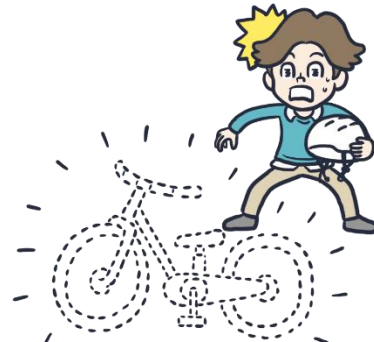
起きてほしくないことで、起きるとお金がかかること



交通事故



病気で入院



自転車の盗難



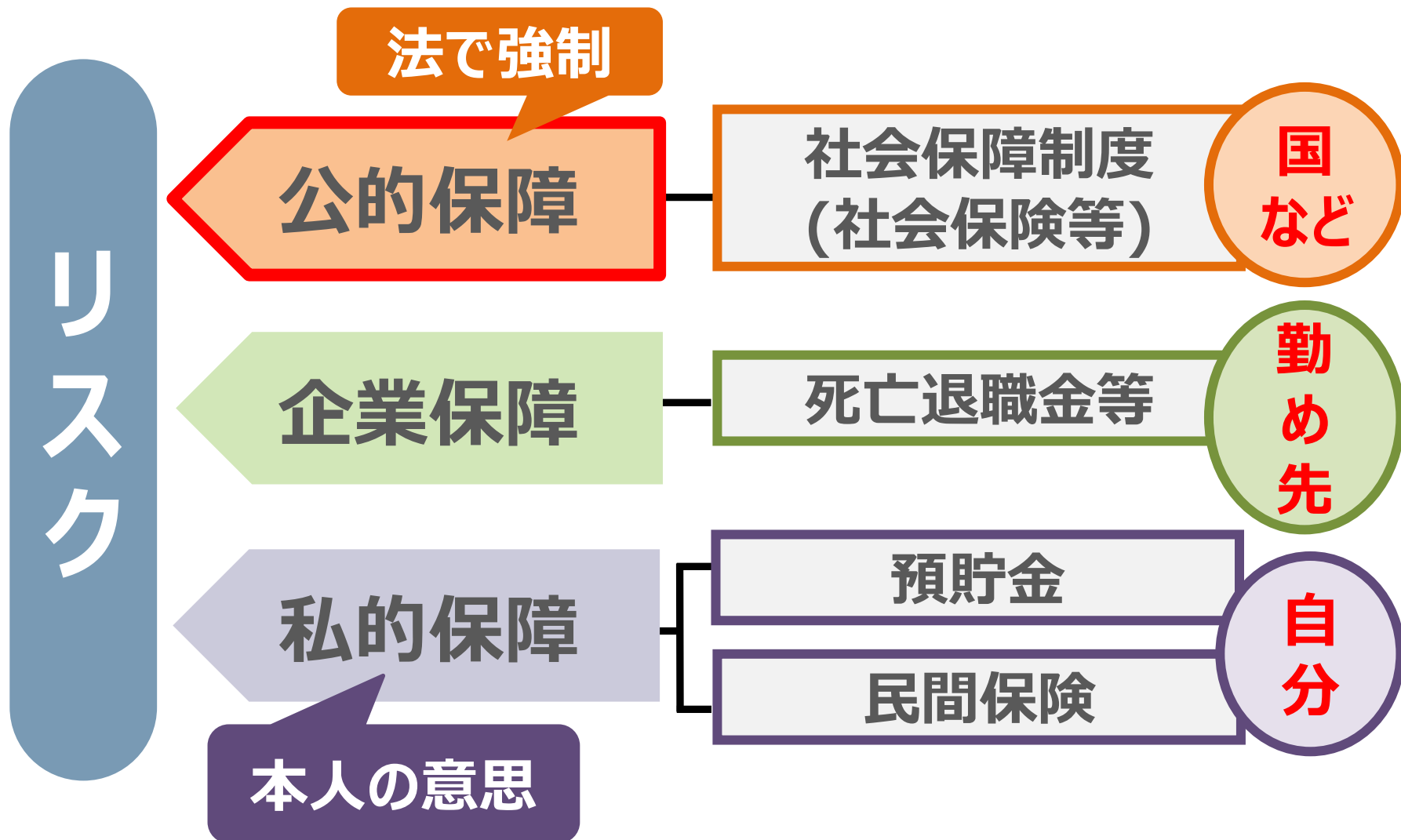
介護



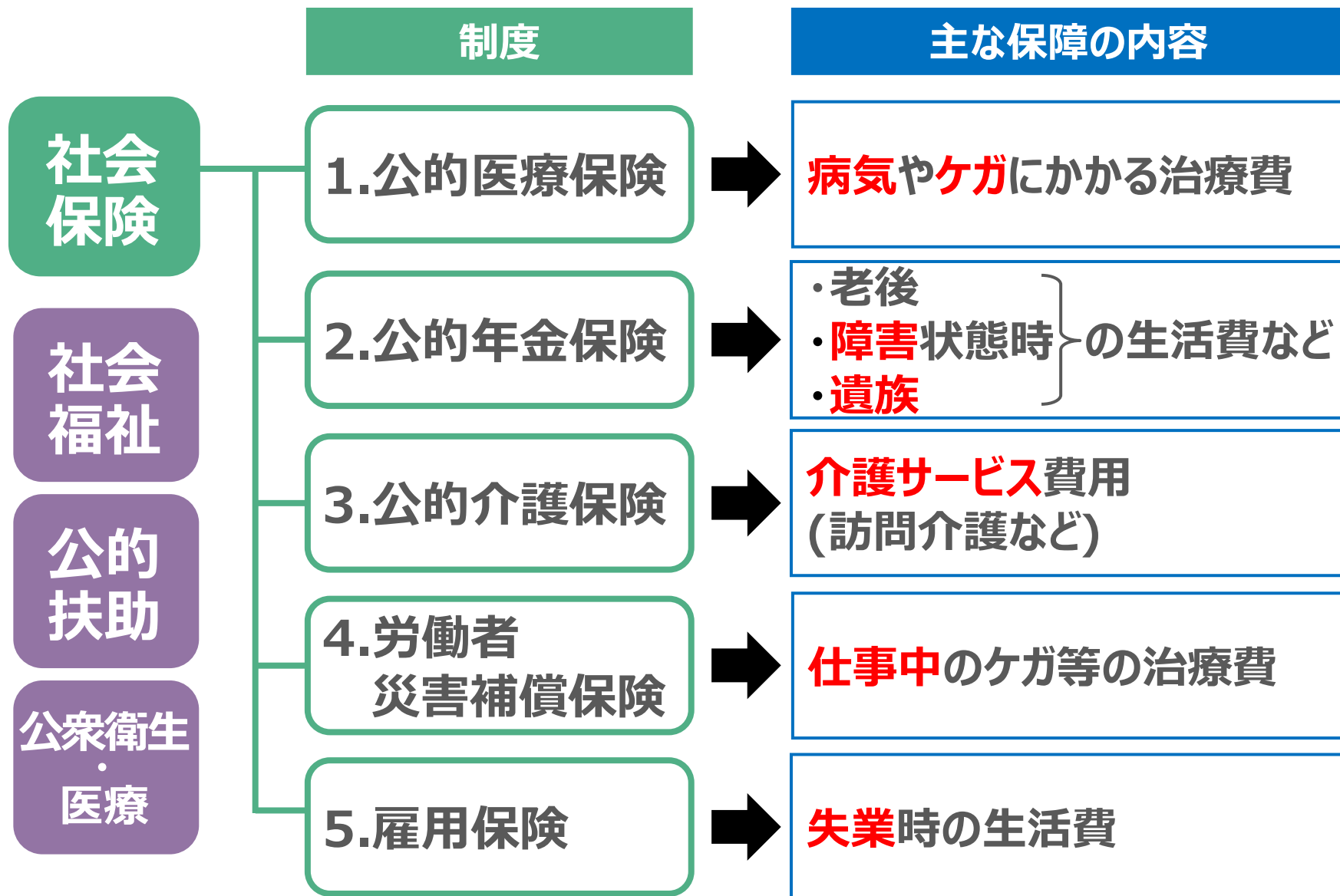
スマホを破損

リスクに備える3つの保障

保障：もしものときに生活を守るもの



社会保障制度の概要



2. もしもリスクが 起きてしまったら・・・

事例①

足の骨折で入院・手術したら

Aさん(23歳)の場合

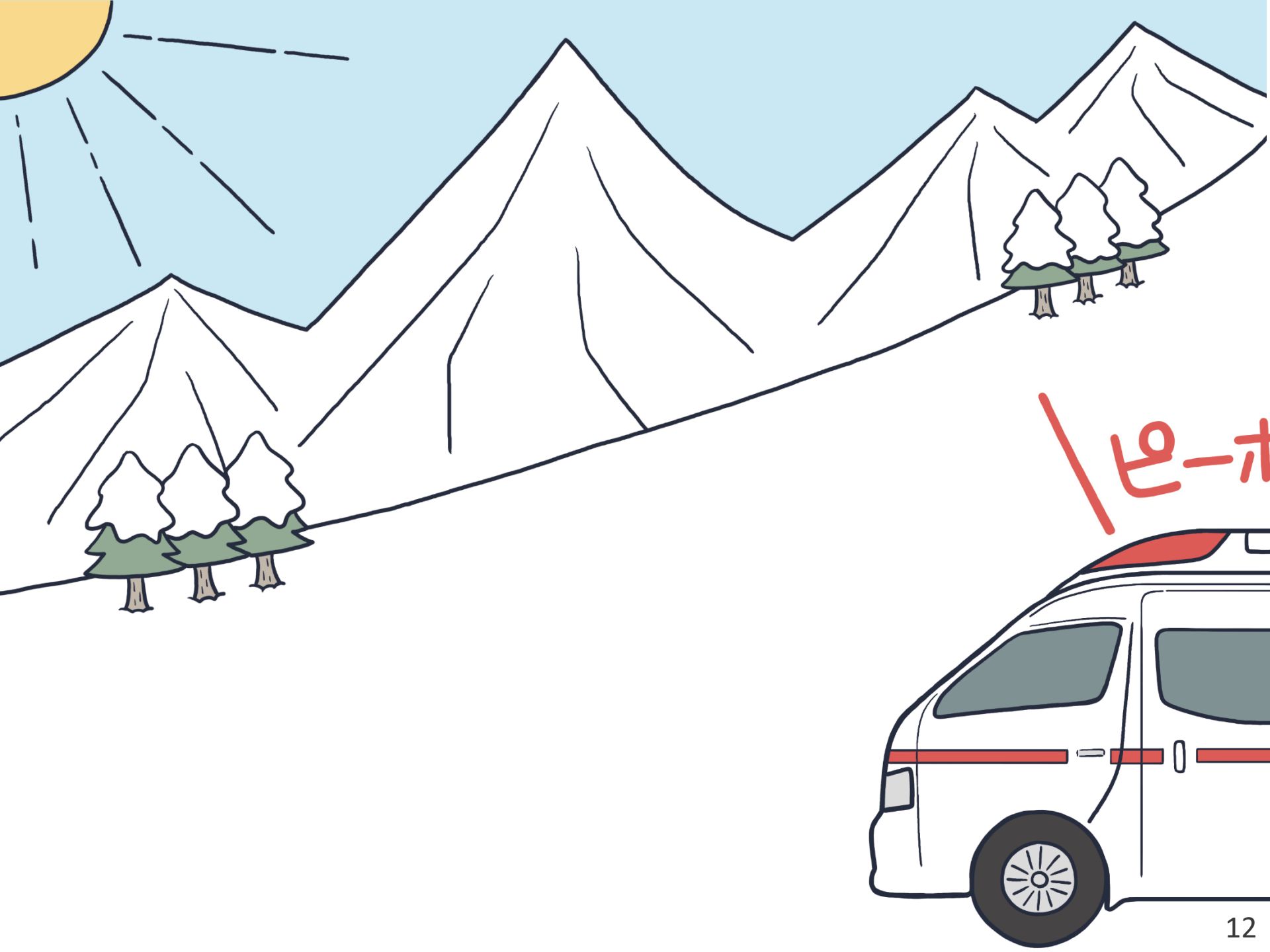


今日は沢山
すべるぞ～！



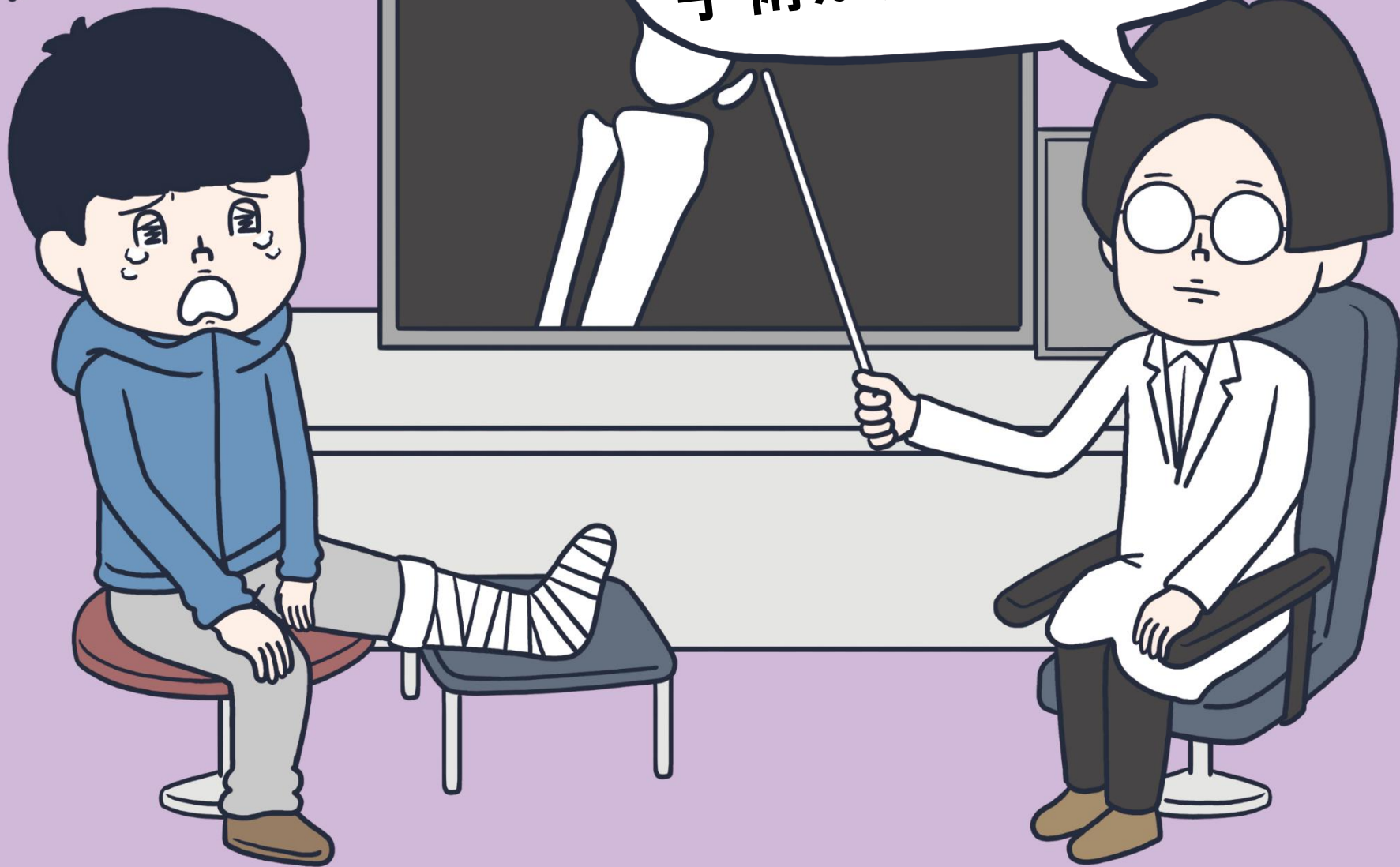






ううっ...

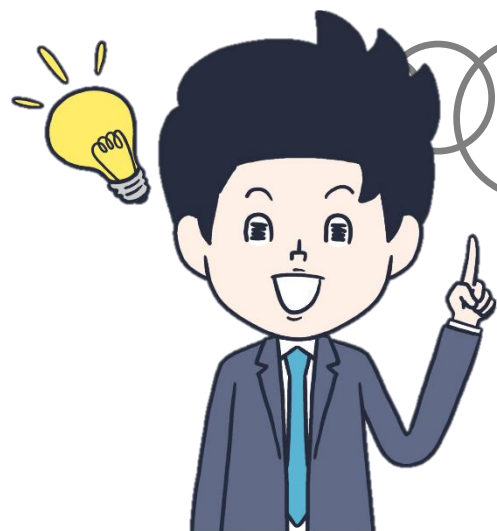
これは...
手術が必要ですねえ



考えてみよう

骨折をしたら・・・
どんなことにお金がかかるか考えてみよう

入院、手術、薬にお金
がかかるかな？入院し
ている間の生活費も
必要？10,000円
くらいかな？



①必要となるお金(事例①)

★足の骨折で手術が必要となり、22日間入院した事例

—

①必要となるお金

かかった医療費	約180万円
その他	約8万円

合計	<u>約188万円</u>
----	---------------

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2022年10月改訂版)をもとに作成

※その他・・・入院中の衣類・日用品やお見舞いに来た家族の交通費・食費等



②入ってくるお金(事例①)

+

②入ってくるお金

公的保障 (公的医療保険)	約168万円
------------------	--------

合計	<u>約168万円</u>
----	---------------

※実際は健康保険組合などから医療機関に支払われるもので、
高額な立替えが必要なわけではありません。

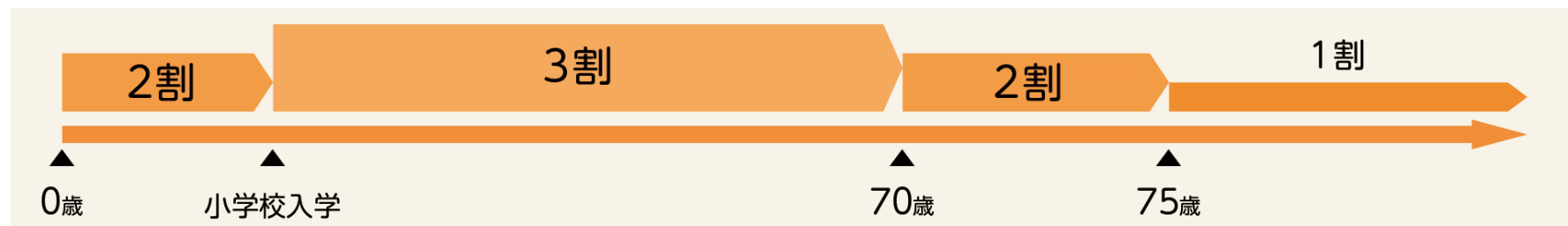
※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2022年10月改訂版)をもとに作成

ケガや病気で入院したときには、国などから受けられる公的保障として、「**公的医療保険**」があります。

②入ってくるお金(事例①)

●公的医療保険（公的保障）

年齢による自己負担の割合



自己負担は**3割**(小学校入学後～70歳になるまで)

自己負担が高額な場合は「高額療養費制度」を活用できる

事例の場合、受けられる保障は合計**約168万円**

③自分で準備する必要があるお金(事例①)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。



－

①必要となるお金

かかった医療費	約180万円
その他	約8万円

合計	約188万円
----	--------

＋

②入ってくるお金

公的保障	約168万円
(公的医療保険)	

合計	約168万円
----	--------

＝

③自分で準備する必要があるお金

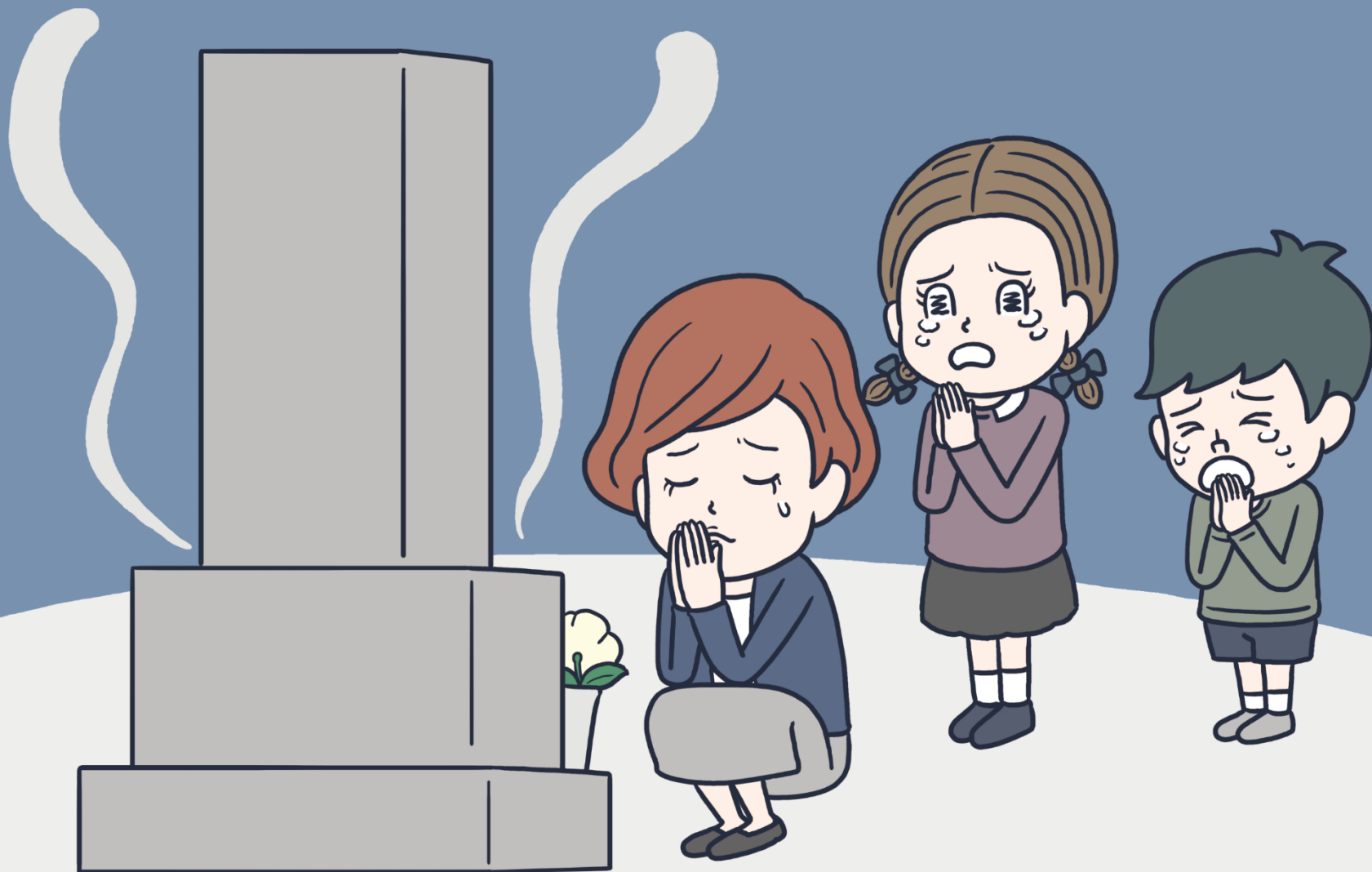
約20万円

事例②

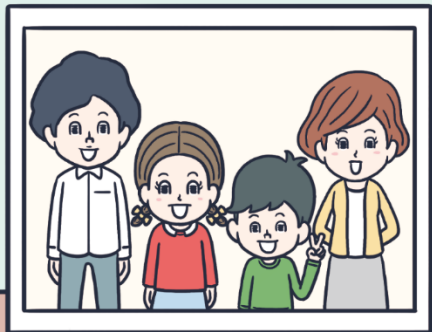
もしも亡くなってしまったら

Bさん(45歳) 妻(42歳)

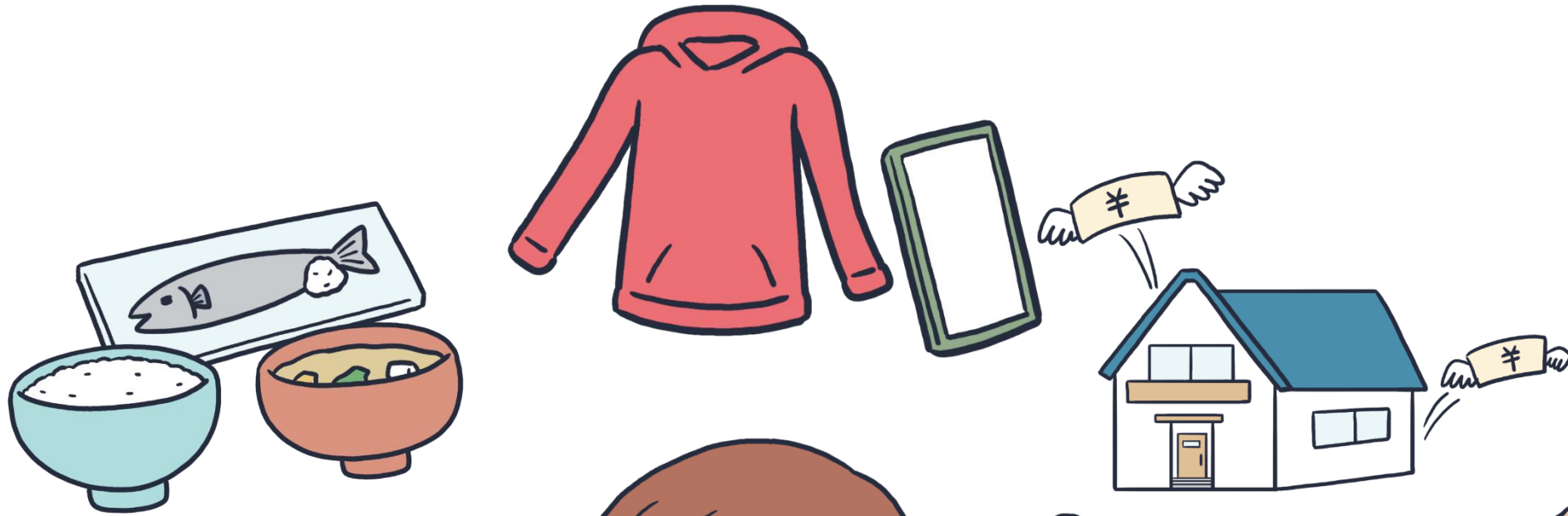
子ども2人の場合



夫の収入が無くなって、
私の収入だけでは...



生活費もあるし

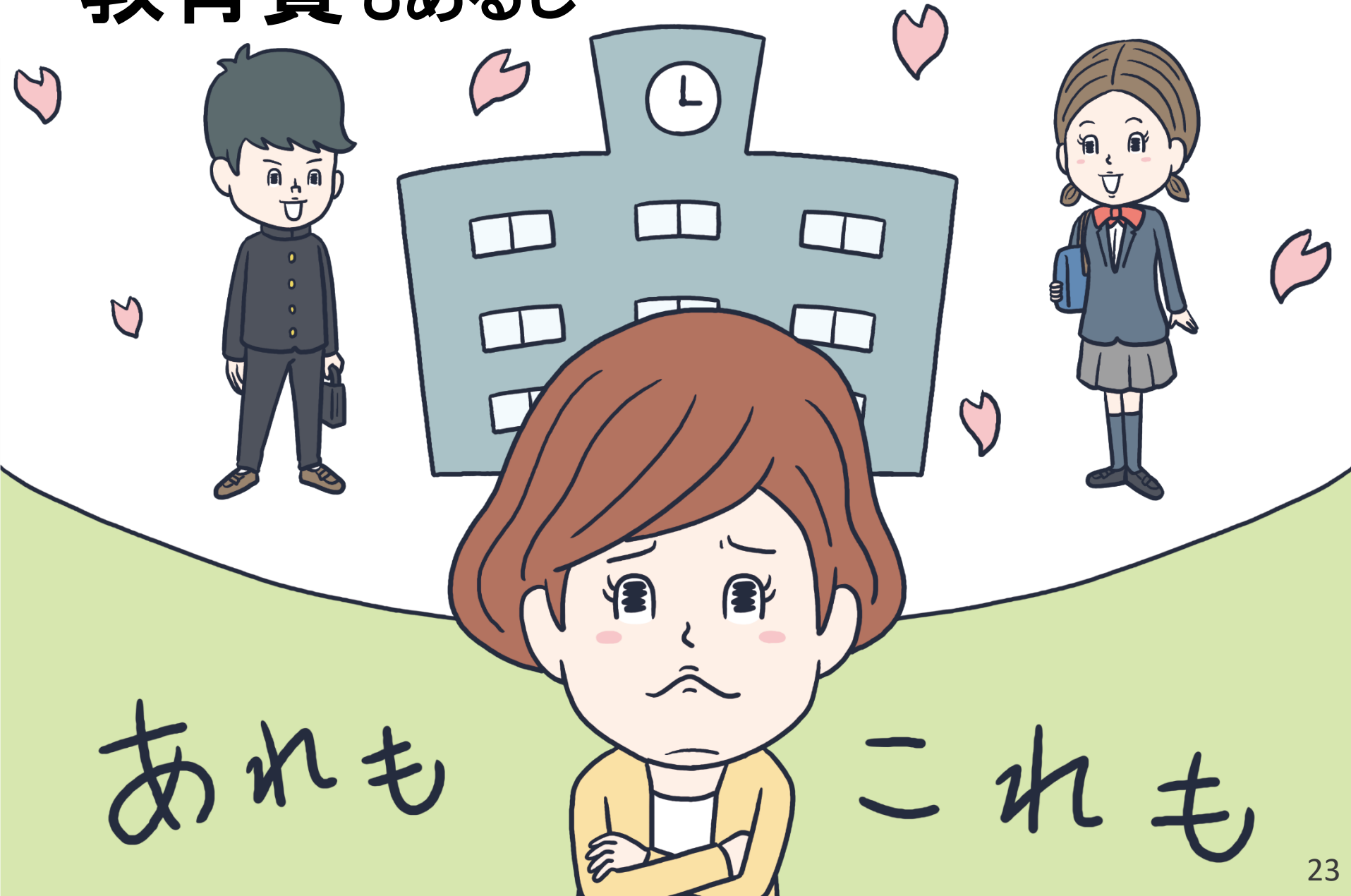


あれも



これも

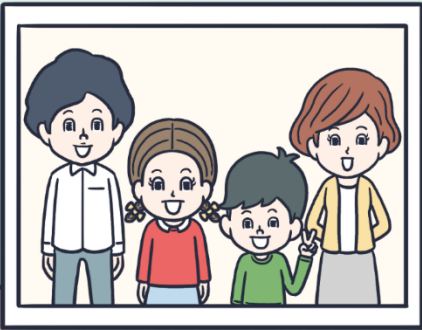
教育費もあるし



あれも

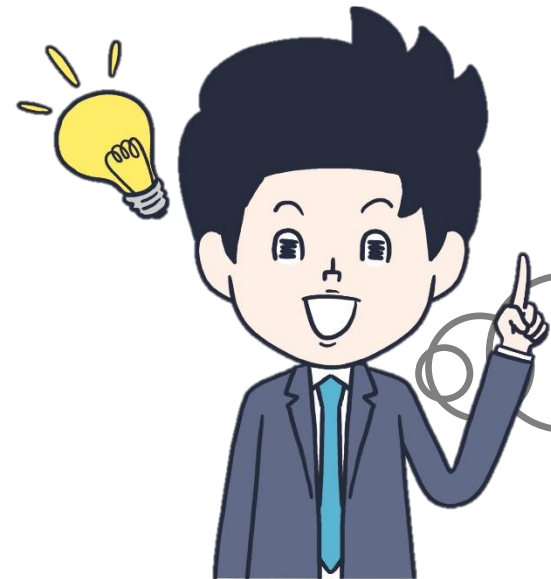
これも

これから一体
いくらかかるのかしら？



考えてみよう

もしもBさんが亡くなってしまったら・・・
「何」に「いくら」かかるか考えてみよう



生活費や教育費・住まい
にかかるお金とかかな？
お葬式のお金も必要？
1,000万円くらい
かかるのかな？

①必要となるお金(事例②)

①必要となるお金

生活費	約9,320万円
子どもの教育費	約2,250万円
その他	約1,590万円
合計	約1億3,160万円

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2023年11月改訂版)をもとに作成

※その他・・・住居修繕費用や
子ども2人の結婚費用、葬儀費用など



考えてみよう

**必要なお金（約1億3,160万円）は
どうやって準備するか考えてみよう**



**こんな大金どうやって
準備するんだろう？
預貯金で払える金額
なのかな？**

②入ってくるお金(事例②)

+

②入ってくるお金

公的保障 (遺族年金)	約6,260万円
企業保障	約400万円
妻の収入	約2,340万円
合計	約9,000万円

※生命保険文化センター「遺族保障ガイド」(2023年11月改訂版)をもとに作成

国などから受けられる公的保障として
公的年金には、
「遺族年金」があります。

③自分で準備する必要があるお金(事例②)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が「自分で準備する必要があるお金」。



—

①必要となるお金

生活費	約9,320万円
子どもの教育費	約2,250万円
その他	約1,590万円

合計	約1億3,160万円
----	------------

+

②入ってくるお金

公的保障	約6,260万円
企業保障	約400万円
妻の収入	約2,340万円

合計	約9,000万円
----	----------

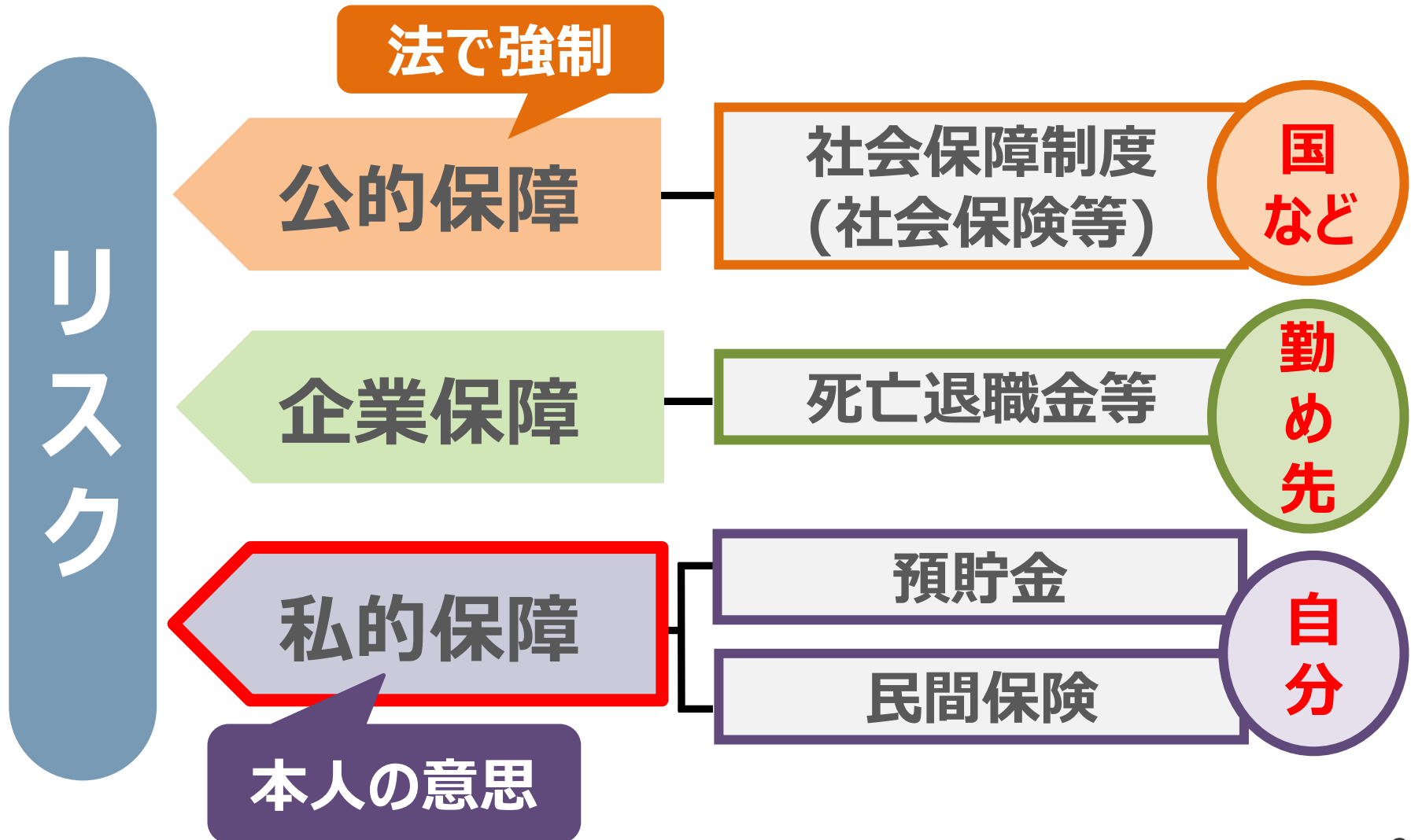
=

③自分で準備する必要があるお金

約4,160万円

リスクに備える3つの保障

保障：もしものときに生活を守るもの



3. 自分で準備する 「私的保障」

預貯金と民間保険①

預貯金

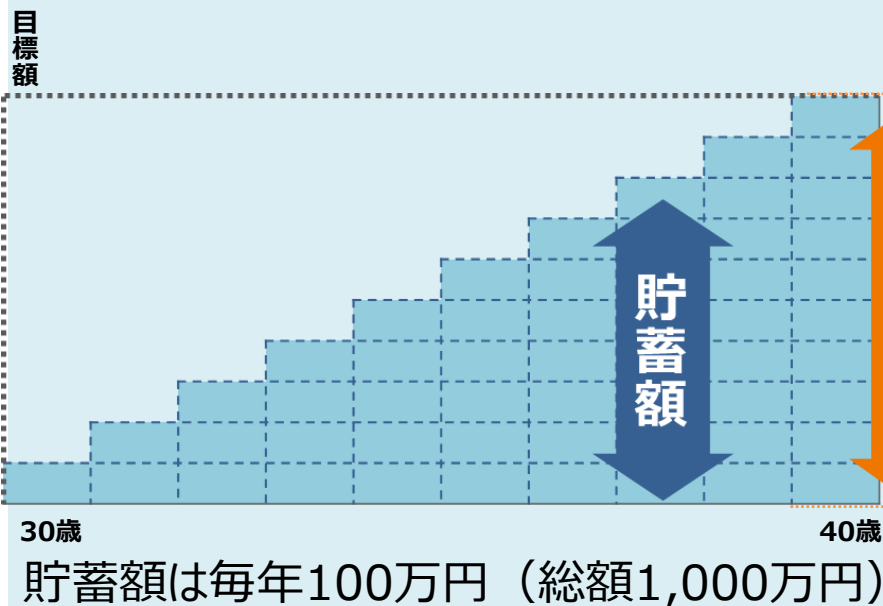


民間保険



預貯金と民間保険②

預貯金



特 徴

**さまざまな目的の
ために貯める**

民間保険



特 徴

**特定の損失
に備える**

注 ①預貯金は利子や税金などを考慮しない金額。②保険料は男性（30歳）契約で、保険期間10年、保険金額1,000万円の定期保険の例。実際の保険料は、保険種類や契約内容、生命保険会社によって異なる場合があります。

「預貯金」と「民間保険」の違い③

預貯金

メリット

- 貯めたお金は自由に使うことができる。
- 途中での引き出しや貯めるペースが自由。
- 預けた金額に応じて利子がつく。

デメリット

- 途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、**必要な**金額が貯まっているとは限らない。

民間保険

- 途中いつでも、病気やケガ等のリスクが発生した場合に、あらかじめ**決められた**金額を受け取ることができる。

- 結果的にリスクが発生しなくても、決められた金額を保険料として支払う必要がある（保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある）。

保険のしくみ①

100人の部員がいる
サッカーチーム



毎年
5人の部員が
骨折を
している



対策をしても
ケガは減らない...



治療にかかる費用は
1人10,000円



保険のしくみ②

全員で治療にかかる
費用を準備すれば
よいのでは？



治療にかかる費用は
全員分で
 $10,000\text{円} \times 5\text{人}$
➡ $50,000\text{円}$



$50,000\text{円} \div 100\text{人}$
➡ 1人あたり
年間500円



骨折した生徒は
 $10,000\text{円}$ を受け取り、
治療費にあてる

保険のしくみ③

ケガに備えるために……

それぞれが
出し合う費用



×



100人



¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000



骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、治療費を支払える

生命保険と損害保険

生命保険

対象

人

受取額

あらかじめ約束した
金額
(定額給付)

備えられる
リスク

- 死亡
- 病気・ケガ
- 老後
- 介護



など

損害保険

モノ

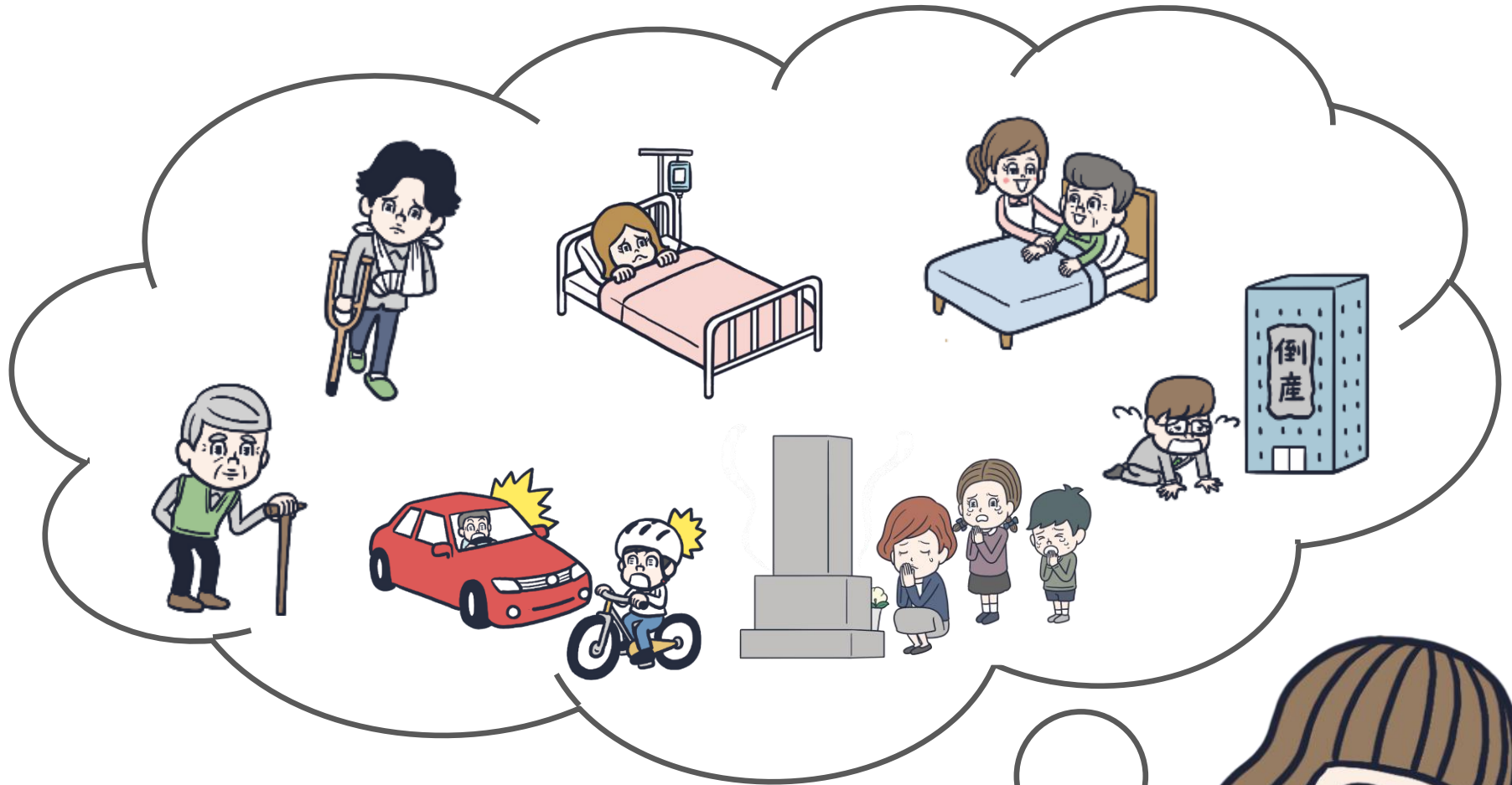
事故により発生した
損害額
じっそんてんば
(実損填補)

- 交通事故
- 火事
- 台風や地震
- ケガ



など

状況に応じたリスクマネジメント



家族構成や年齢などによって、
身の回りにあるリスクは異なります。
状況に応じてリスクへの備えを考えよう。



4. まとめ

まとめ

- ① リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- ② **公的保障**と企業保障で不足する部分を**私的保障**で補う。
- ③ **預貯金**と**民間保険**にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。
- ④ 家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なる。
状況に応じて**リスクへの備え**を考えよう。